

KAHOTECNO
Genetic Testing of Animals and Foods
Technical Consulting



福岡県工業技術センター
FUKUOKA INDUSTRIAL TECHNOLOGY CENTER

令和8年5月12日

中小企業技術振興課
直 通：092-643-3433
内 線：3727
担 当：池田

全国初！

動物病院待望の全犬種対応「止血異常病検査法」を開発！

～有限会社カホテクノと県工業技術センターとの共同開発～

動植物の遺伝子診断を行う有限会社カホテクノ（飯塚市）と県工業技術センター生物食品研究所は共同開発により、全犬種^{※1}対応の止血異常病^{※2}検査法を新たに確立しました。

この検査法の確立により、犬の遺伝性疾患である止血異常病を確認するため、手術前に行われる遺伝子解析検査が、これまでの7犬種（ドーベルマンやウェルシュ・コーギーなど）から、全犬種まで拡大します。

5月13日（愛犬の日）に、カホテクノと提携する全国1,800か所の動物病院で本検査サービスの提供を開始します。

※1…一般社団法人ジャパンケネルクラブ（純粋犬種の犬籍登録、有能・優良犬の普及、畜犬の飼育の指導奨励、動物愛護精神の高揚のために活動している国際的愛犬団体）では約200種が登録

※2…血液を固める因子が不足し、血が止まりにくくなる病気

【開発の概要】

- ・犬の遺伝性疾患である止血異常病を確認するため、一般的に手術前には遺伝子解析検査が実施されています。
- ・これまで、この検査が可能な犬種は7種（ドーベルマンやウェルシュ・コーギーなど）に限定されていました。
- ・カホテクノは、県工業技術センター生物食品研究所と共同で、全犬種対応の疾患に関わる遺伝子を自動で検出するプログラムを新たに開発しました。

【診断サービス】

- 提供形態： 外注検査（採血0.5mLを保存液に入れて郵送）
対象施設： 一般動物病院／二次診療施設（大規模病院・専門病院）／大学
提供報告書： 検出変異一覧および臨床的意義の解説レポート

【当検査に関する問い合わせ先】
有限会社カホテクノ
TEL：0948-26-1660 担当：大里
E-mail：ohsato_yoshiharu@kahotechno.co.jp



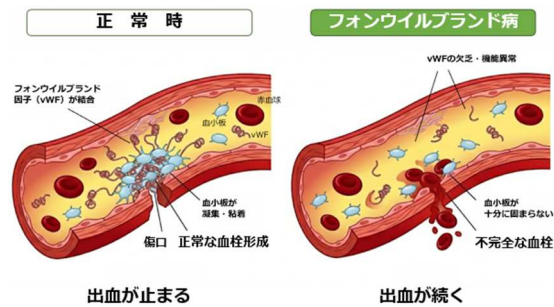
【当技術に関する問い合わせ先】
福岡県工業技術センター
生物食品研究所 生物資源課
TEL：0942-30-6216 担当：奥村・日下

開発の経緯

【止血異常病（フォンウイルブランド病）とは】

- 遺伝性の止血異常病で、フォンウイルブランド因子（vWF）遺伝子異常により発症する。
- vWFの低下・機能異常により、血が止まりにくくなる病気であり、保因の有無はvWF遺伝子検査で判定する。

【フォンウイルブランド病の病態】



【開発のきっかけ】

- カホテクノはvWF遺伝子検査を行っているが、検査が可能な犬種が7種（ドーベルマンやウェルシュ・コーギーなど）に限定されていた。
- 動物病院からは7種の犬種以外に、日本で人気が高いトイプードル、チワワ、ミニチュアダックスフンドなどにも検査ができないか、多くの要望が寄せられていた。
- そこで生物食品研究所に相談し、従来よりも高度な遺伝子解読が可能な第3世代シーケンサー※3活用による新規検査法を確立する提案を受けた。
- 令和7年度県補助金を活用し、共同開発に取り組むこととなった。

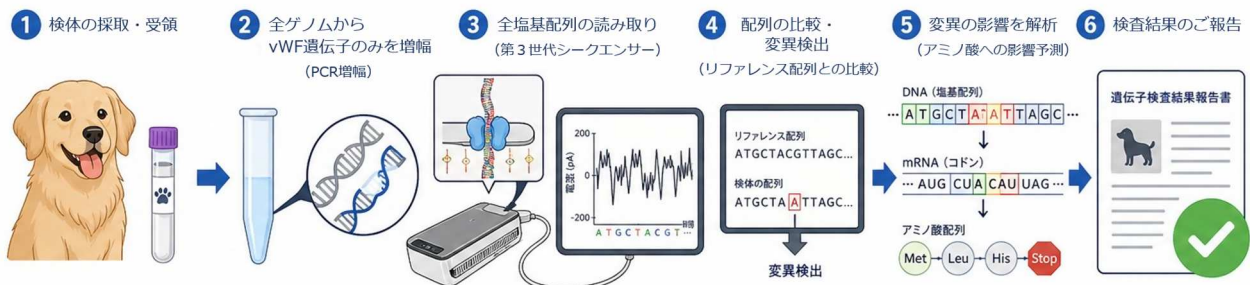
※3…DNAシーケンサーの原理は、第1世代は短いDNAを1本ずつ解析、第2世代はそれを大量並列に高速で行う。それに対して第3世代は、長いDNAをそのまま読み取れる点が特徴で、複雑なゲノム構造も解読できる。

【従来検査法】

- 7種の犬種は過去の知見から、vWF遺伝子の配列において異常が起こりうる箇所を確認できているため、その箇所での異常の有無を検査。

【新検査法】

- 第3世代シーケンサーの活用により、vWF遺伝子の配列の全長を解析し、異常の有無を確認することが可能。
- 国内初の全犬種対応リスク判定サービスを開発。



【新検査法の流れ】

【今後の展開】

- 新検査は提携先の動物病院を窓口として、5月13日の愛犬の日から本格サービスを開始予定。
- カホテクノは、今後もこれまで対応できなかった遺伝子検査の新規サービス提供を進め、ペットのQOL向上を推進。